

審査の結果の要旨

氏名 ザイナー ル アヘラム モハメド サレー

本論文「**Gulf Coastal Urbanism; The influential ideas that have shaped the Gulf's Waterfront with an emphasis on the Metabolist group work in the Gulf** (湾岸のアーバニズム：ウォーター・フロントを形成した着想～メタボリスト・グループへの着目をふまえて)」は、湾岸部においてどのような都市デザインが適用されたのか、特にアラビア湾地域における埋立地などを含む極めて人工的な海洋都市においてメタボリストらの思考はどのような影響を与えたのか、という点を明らかにすることを目的としている。日本のメタボリスト・グループの仕事については多くの既往研究があるものの、それがアラビア湾ひいてはバーレーンという地域文脈における実体化についてまとまった言及はこれまで存在していない。本論文は7章から構成される。

第1章は **Conceptual Frameworks** であり、研究の背景と目的が整理されており、アラビア湾の海洋計画の形成に影響したものは何か、メタボリスト・グループの理論はどのような空間となったのかというリサーチ・クエスチョンが述べられている。

第2章 **Theorizing Cities on the New Sea** では、海岸部における都市開発の展開をレビューし、メタボリズムに関する用語と、丹下健三をはじめとするメタボリスト・グループからアラブ諸国の建築家への影響を整理している。

第3章 **Influential Ideas** では、バーレーン、オマーン、サウジアラビア、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦、ドバイの各国における海洋計画を、策定時期による影響などを勘案しながら、特徴や共通点を論じている。石油発見を経て、アラビア湾岸の諸都市において、教育、住宅、福祉施設などを備える都市化が進んだ。その過程において国際的なプランナーが関与した。この時期は、大規模な埋立を伴う開発によって特徴づけられる。メタボリスト・グループからの影響は、重要な開発事業に際立っていた。近年では国際的な建築家などによって海岸都市の開発が注目されている。

第4章 **Metabolism** では、1965-87年の時期における丹下健三、菊竹清訓、黒川紀章の仕事に着目し、抽象的な概念として提示している海洋都市と、それらがアラビア湾のプロジェクトに現れた実態を明らかにしている。特に丹下健三に

関しては、丹下健三事務所で働いていた各国の所員らにインタビューを行っている。

第5章 **Bahrain & Land Reclamation** では、特に 1960 年代半ば以降においてバーレーンにおける海岸線の変容過程を明らかにしている。地形との関係から行われた埋立、アンビルトなプロジェクトも含む市場の反応をふまえた開発事業の実態、環境保護の観点による市民の開発反対運動などの実態が詳述されている。本章においては、第2章で整理したメタボリズムの概念的な用語による枠組みをふまえて、メタボリズムの理念や空間像が必ずしも常に通用していたわけではなく、バーレーンという国において露呈したメタボリズムの限界が明らかにされている。

結論として、メタボリズムは、バーレーンの湾岸部において国家レベルの影響を与えてきたものであるが、メガ・スケールの開発は十全に実現しておらず、また特徴ある空間像やアイデンティティはメタボリスト・グループによって議論されたものというよりは、各建築家によってケースに応じて提示されていったものといえる。

総じて、メタボリズムとアラビア湾沿岸の諸都市との関係を、理念から実際のプロジェクトに至るまで、明らかにしている点で、本論文には新規性と有用性がある。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。